

# 第11回ちゅら眼科懇話会

謹啓

時下、先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社製品に関しましては格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さてこの度、下記のテーマにて、学術講演会を開催させて頂く運びとなりました。

つきましては、万障のお繰り合わせの上、何卒、ご参加賜りますようご案内申し上げます。

謹白

日時

2019年12月21日(土)  
19:10~20:00

会場

ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城  
沖縄県那覇市首里山川町1-132-1  
TEL:098-886-5454

製品紹介 19:10-19:20

HOYA株式会社 メディカル事業部  
『HOYA Vivinex Toric について』

特別講演 19:20-20:00

座長 古泉 英貴 先生 (琉球大学大学院医学研究科 眼科学講座 教授)

演者 岡本 史樹 先生 (筑波大学医学医療系眼科 講師)

演題 『網膜疾患の視機能と人工硝子体』

黄斑前膜、黄斑円孔、網膜剥離、網膜静脈分枝閉塞症に伴う嚢胞様黄斑浮腫などの黄斑が障害されている患者では、視力低下とともに様々な視機能障害をきたす。その代表が変視や不等像視である。実臨床では、治療を行い視力が良好となっても“物が歪んで見える”“ものが小さく見える”などの愁訴を聞くことは少なくない。我々の研究では、上記の網膜疾患群において全体の9割以上が変視や不等像視を呈することが分かった。そして疾患によって変視や不等像視の特徴が異なることも分かってきた。本講演では網膜疾患患者の変視と不等像視について具体的な症例を提示し、さらに治療による視機能予後と網膜形態について、最新の知見を交えながら解説する。

また、硝子体手術に用いられる眼内タンポナーデ物質には網膜毒性や白内障の進行、術後の伏臥位の維持など種々の問題がある。その問題を解決する方法としてハイドロゲル素材の人工硝子体を開発した。このゲルはヒト硝子体とほぼ同等の屈折率を持つために術後早期より良好な視機能を提供でき、また術後の腹臥位が不要となることで網膜剥離などの手術を日帰り手術でできる可能性がある。本講演では、本ゲルの開発過程を述べるとともに、人工硝子体としてヒトに臨床応用できた際の期待にも触れたい。

略歴

1994年 筑波大学医学類卒業  
1997年 茨城県立中央病院眼科  
1998年 土浦協同病院眼科  
2000年 総合守谷第一病院眼科医長  
2001年 筑波大学医学医療系眼科講師

\* 講演会終了後に懇親会を予定しております。

主催 HOYA株式会社 メディカル事業部